

職員リレーエッセイ

『 フォローってとても大事！ 』

ニコニコハウス鳴海 生活支援員 水野晶子

皆様、こんにちは！ニコニコ鳴海で非常勤をさせてもらい、8年目となりました。

大学卒業後、知的障害者入所施設に6年勤め、長女出産のため退職。その後は長男、次男と恵まれ、子育てもバタバタしていたので、しばらく専業主婦をしていました。しかし、3人子どもがいるので、1馬力よりは2馬力でなくては！と思い立ち、今に至ります。

さてさて、今回のネタは私の学生時代の話です。私は大学時代、学外のサークルに入っていました。名古屋市民おんたけ休暇村内にあるキャンプ場で、毎年名古屋市在中の小中学生の子どもたちを公募してキャンプをしているのですが（現在も続いていますよ～！）、そこで子どもたちとともにキャンプ生活をするお兄さん、お姉さんとなる「キャンプカウンセラー」のためのサークルです。

サークルというより、いわばカウンセラー養成学校のようなところで、机上の研修や実際に何度かの研修キャンプをします。この研修キャンプがなかなかの曲者で、当時は青少年公園（現モリコロパーク）のキャンプ場を使っていましたが、藤が丘の駅の集合から、すでに研修が始まっていて、5分前に集合していないと、先輩講師に「やる気のない奴は帰れ！」と言われる始末…。花の大学生活のはずなのに、研修キャンプ中、移動は常に小走り、先輩講師の講評はメモ取り必須（とらないと怒られます）、最終の現地（おんたけキャンプ場）トレーニングキャンプでは、炊飯に使う薪はビショビショにぬらされ、マッチの本数は5本しかなかったり、朝の5時半ごろ急に「火事だ～！！」と大声で起こされ、早朝から消火訓練をしたりと、書いている自分ですら改めて「過酷・・・」と思うような研修を経て、夏のキャンプに挑んでいました。すべては、キャンプに来る人達のために、あの厳しい研修があるんだ・・・と気づくにはだいぶ時間はかかりましたが、初めて子どもたちと一緒にキャンプをし、バスで帰る子どもたちを見送った時の、あのなんともいえない感動は今でも鮮明に覚えています。



そんなキャンプ生活や平日頃の研修で必ず言われてきたことが「フォローしよう」です。一番良く「フォローしよう」と言われていたのはキャンプファイヤーでした。キャンプファイヤーにもいろんな役割があり、進行役や盛り上げるゲームをする人、様々です。誰かがしゃべりだしたら、それに応えて、ちょっとおもしろい話し方でかえしてみたり、時にはしゃべっている人が話をきいてほしそうな様子を見せたら、「○○がなんていってるかな～？」などと近くにいる子どもたちに問いかけたり、常に自分も進行する人の目線を持ち、その人が何を望んでいるのか考えながらやる。これは、今の私の核となっています。あの時受けたカウンセラー仲間からの心強い「フォロー」が、ずっと私の背中を支え続けてくれたから、4年間のサークル活動を無事終えることができました。

だから私も誰かの背中をちょっとでも支えられるような「フォロー」ができる自分でありたいと思っています。そんな風に仕事をしたいと思う今日この頃です。

次は、介護支援センターなごみ ケアマネージャーの津田さんにつなぎます。

